

動物の診察室から

○ 40 ○

週間でどんどん悪くなり死んでしまう病気で、また、徐々に進行した場合でも1年ほどで状態は悪くなります。

送っています。チワワのココちゃんは、今月の初めに急に立てなくなり、2日で症状は急性に進行しました。3日目に来院したときには、

パビヨンのアゲハちゃん。原因はまだ分からないが、1歳半の女の子です。今年の6月に、何となく歩き方がおかしいので来院されましたが、症状が軽いため様子を見ることにしました。しかし、2日後には歩くと右に傾き、神経学検査でも、脳

す。原因はまだ分からない部分がありますが、パグや特定の犬種では、脳のASTROサイト（星状細胞）が壊れやすく、ASTROサイトが壊れると中のタンパクに対して自己抗体ができ、この自己の抗体が脳細胞を

量のス��ロイドを使うことで脳細胞の壊死を食い止めることができれば、今まで考えられていたより長く生きることが分かってきました。アゲハちゃんは初期から治療できなかったことも幸いし、今は投薬しながら普通に生活を

た。しかし、治療に反応しなく、症状がどんどん悪くなる場合も多くあります。症状がよくなった場合でも、壊死性脳炎は進行性で、症状は徐々に進行していきま

パグ脳炎

早期治療で通常生活も

の病気が疑われました。CT検査の結果は、軽度の脊髄空洞症と脳室の拡大があり、原因は特定できませんでしたが、脳神経の症状が出ていたため、脳圧を下げる治療と、ステロイドの投与が開始されました。髄液の検査も行い、数日後に出た検査結果でアゲハちゃんは「壊死性髄膜脳炎」でした。

攻撃し脳細胞を壊して（壊死させて）脳炎を起こすといわれています。診断はMRIで特徴的な脳炎のパターンを確認するか、髄液中の抗ASTROサイト自己抗体を調べることで診断できます。

この病気はパグで多くおこることから「パグ脳炎」ともいわれる病気で



退院後、検診に来たココちゃん

ですが、やはりショックを受けられます。でも、大きなお耳のアゲハちゃんや、大きなお目々のココちゃんのご家族は、他の子より短い命と分かっているにも、一生懸命励まして、可愛がっています。そうすると「僕がんばるね！」と動物は応えてくれます。がんばりましょうね！

